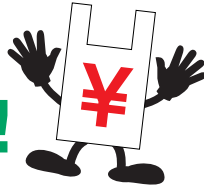


レジ袋はもうタダじゃない!



「お買い物にはマイバッグを」ずいぶん前から、スーパーで、自治体の広報で、テレビや新聞で・・・色々なところで耳にしますよね?それでもやはり、買い物に行けば、当然のようにレジ袋を渡されることも多いのではないのでしょうか。今、「レジ袋」をめぐる日本と世界の状況は、どうなっているのでしょうか。

■レジ袋削減に向けたこれまでの取組み

レジ袋は、1970年代から使われ始め、その便利さからスーパーをはじめとするあらゆる小売店に普及、私たちの生活に浸透しました。現在、日本では1年間に約300億枚以上のレジ袋が使われています。これは原油に換算すると55万キロリットル以上。このレジ袋を作るのに必要な石油は限りある資源であること、そして、ごみ問題が行き詰る中で、レジ袋は買い物袋持参という代替策により削減可能であることから、国や自治体でもマイバッグ持参を呼びかけるキャンペーンやポイント制度など様々な取組みが行われてきました。しかし、タダでもらえる状況では、たった一度使っただけで捨てられ、儂い一生を終えるレジ袋が相変わらず多いのが現実でした。

■全国各地で始まる有料化

◆杉並区では

「マイバッグはお持ちでしょうか?」今年4月から、東京都杉並区内の大丸ピーコックでは、レジで買い物客に声をかけています。ビニール袋は1枚3円、紙袋は1枚50円で販売していますが、8割以上の方が、マイバッグを持参し、レジ袋の利用が削減されているそうです。杉並区ではこの4月、全国にさきがけて「レジ袋有料化等の推進条例」を制定、施行しました。同区では、2002年にレジ袋に税金をかける案が出て以来、行政、事業者、消費者が一体となってレジ袋削減キャンペーンを行ってきましたが、マイバッグ持参率は2~3割。自主的な努力だけでは限界があることがわかり、条例制定を決めたのです。コンビニもその対象です。「これまで様々な取組みをしてきたが、有料化が最も削減効果があることは明らかだ」区長はコメントしています。



有料化により8割以上の客がマイバッグ持参 (大丸ピーコック井荻店)

◆富山県では

今年4月、県内全域でレジ袋の有料化を開始しました。県と消費者団体と事業者とが時間をかけて話し合い、三者協定を締結して実施にこぎつけました。マイバッグ持参率は平均して約9割に達しているそうです。

レジ袋の有料化は、昨年改正施行された容器包装リサイクル法に盛り込まれることも期待されていました。しかし、国の法律には今回の改正でそこまで盛り込まれなかったことから、ごみの削減に切迫感を持つ各地の自治体で、レジ袋の有料化などの対策をとる動きが始まっているのです。タダで配っている他店に客が流れることを心配する事業者だけでは踏み切りにくい有料化は、自治体、事業者、消費者が手を組むことでようやく実現したのです。

■世界ではレジ袋有料がスタンダードに

諸外国の状況はどうなっているのでしょうか。ヨーロッパではすでにいくつもの国で、無料のレジ袋はないのが普通になっています。スーパーに行くときは、みんな袋を持って行きます。

アジアでも、「一回用品(使い捨て品)使用規制」で1999年から有料化を義務付けている韓国、2002年から有料化実施の台湾に続き、2008年6月からは人口大国・中国でも有料化が始まりました。中国ではレジ袋が1日30億枚使われているといわれており、これが国全体でいっせいに有料化されることの影響は大きいでしょう。すでに、多くのスーパーで8~9割の削減がみられるそうです。

地域の取組みがようやく始まったばかりの日本は、世界の潮流からはだいぶ遅れをとっているようです。しかし、「レジ袋は有料」が常識になる日はそれほど遠いことではないかもしれません。

各国のレジ袋有料化等の制度

FoE Japan作成

国名	制度	概要
アイルランド	レジ袋税 (2002~)	1枚0.15ユーロの課税。2007年からは0.22ユーロ。
イギリス	——	2007年環境省と小売業者でレジ袋削減目標に合意。大手スーパーで有料化開始。
デンマーク	容器包装課税 (1994~)	使い捨ての容器包装に材質や重量に応じて課税。
ドイツ	——	包装廃棄物政令(リサイクル料金の企業負担義務)により大部分のスーパーで有料化。
韓国	一回用品使用規制 (1999~)	10坪以上の小売店では強制有料化。2002年より自主協定により実施強化。
中国	無料提供禁止 (2008~)	無料提供全面禁止、有料制度導入。
台湾	使用制限 (2002~)	複数の店舗を有する法人で厚さ0.06ミリ以上のレジ袋を有料化。

くみです。

現在、国内の携帯電話の出荷数(約4,950万台)、に対して回収率は10%強にとどまっています。携帯電話に何種類ものレアメタルが使われていること、その採掘のために貴重な自然が

失われていること、回収してリサイクルすることで、資源を有効利用できることは、まだあまり知られていません。「マウンテンゴリラとケータイ」のユニークな組み合わせは、私たちに便利な社会のウラに潜む問題に気づかせてくれるだけでなく、そんな「眠れる資源」を実際に引っ張り出させてくれます。

4月のアースディから始まり、これまでに4つのイベントで合計1,000台以上を回収したそうです。小さくてジャマにならないから・・・と、あなたのおうちで眠っているケータイはありませんか?今後の回収ブース出展の予定は、下記のウェブサイトをご覧ください。

A SEED JAPAN ケータイゴリラ

http://www.gomizero.org/topics/2008/ketai_gorilla/index.html

、いで始まったプロジェクトです。

その方法はまず、イベントのブースで携帯電話を回収し、破壊・解体します。その後工場ではレアメタルを取り出してリサイクルし、その収益をマウンテンゴリラの保護活動を行っているNGOに寄付するというし